

未来民主ちば

市長の語り

待機児童対策及び保育士と保育の質の確保について

待機児童ゼロの達成と継続が、子育て世代への大きな支援となり、本市の魅力を高めると考えるが、保育を巡る様々な問題が未解決の中、政府は幼児教育・保育の無償化を実施するとし、待機児童増加、更なる保育士不足、保育の質の低下が懸念される。待機児童ゼロへの課題と対策、保育士と保育の質の確保について伺う。

利便性の高い主要駅周辺は、保育需要が高まる一方、賃料が高いなどの理由で整備が進まないなど需給のミスマッチが生じやすいため、需要増の要因を把握し、重点整備地域を適切に選定するとともに、賃借料補助を活用した整備を進める。保育士確保については、月額3万円の給与補助、宿舍借り上げ支援、保育士修学資金等貸付事業等を実施し、平成29年4月からの1年間で民間保育園の保育士が235人増加した。保育の質の確保については、短大と連携したキャリアアップ研修など、研修の充実に努めるとともに、公立保育所経験者の巡回指導員

を増員し、民間保育施設の保育内容や環境面などについて指導している。

あんしんケアセンターの利便性向上について

地域の高齢者にとって身近な相談所である、あんしんケアセンターは、我が会派でも長年着目し、中学校区単位で整備すべきなど具体的な提案を行ってきたが、センターを増設したことによる実績と評価、高齢者の利便性に配慮する取り組みについて伺う。

相談延べ件数及び訪問延べ件数が、共に、前年度より3割以上増加したことから、利便性が向上し、身近で相談しやすい環境になったと考えている。また、センターが本市の公の機関だと分かりやすくするため、入口付近に設置できる市章入りのポスターを全センターに配布したほか、来所困難な高齢者に対し、訪問や、



市章入りのポスター

自治会等主催のコミュニティカフェなどに定期的にセンター職員が出向き、医療や介護の出張相談を開催している。

エアコン設置の考え方と導入までの対策は

近年、猛暑日が増加傾向にある中、本市の小中学校においては、児童生徒が最も長く過ごす普通教室にはエアコンが設置されていない。学校適正配置により廃校となる学校への対応も含め、エアコン設置の考え方と導入までの対策を伺う。

小中学校の普通教室へのエアコン設置は、暑さへの耐性や市民意見から、小学校を優先し、2020年度の完了を目指す。適正配置により廃校となる学校は、地元の協議状況やスケジュールを考慮し、個別に対応する。また、現在、エアコンが設置された図書室等の積極的な開放や、スポーツドリンク等の配付、高温時には、「熱中症予防運動指針※2」を参考にするなど、適切に対応しており、今後、熱中症対策を充実させるとともに、夏季休業期間の前倒しと延長について、検討を進める。

公明党千葉市議会議員団

市長の語り

家庭教育支援に向けた取り組みについて

大人のひきこもりが深刻な問題となっており、不登校がひきこもりの原因になるケースもみられる中、予防的・開発的な継続した家庭教育支援の取り組みが重要と考えるが、本市の取り組みについて伺う。

家庭教育支援として行政が個々の家庭に関わるには限界があるため、行政のみではなく、地域のボランティア等の協力も得ながら、各種支援を推進している。また、子どもの成長段階に沿った課題に対応するため、各分野が連携を図り、自立に向けて継続した支援が必要であり、PTA等との連携した事業を検討するとともに、本市として各部局間で情報共有し、分野を超えた切れ目のない事業展開が図られる体制を整備していく。

シルバー人材センターの役割について

高齢者の社会での活躍の場の確保が喫緊の課題となっている現状を踏まえ、これからのシルバー人材センターの役割と位置づけをどのように期待して、取り組みを計画するか伺う。更にシルバー人材センターの組織の刷新を図るべきと要望する。

介護・保育人材不足や空き家対策など本市が抱える課題への対応を期待しており、業務を依頼するだけでなく、センターが効果的に取り組めるよう、本市の事業推進についての協議へ参加し、意見・要望・助言を行うほか、比較的短時間の就労を求める高齢者にセンターを紹介するな



シルバー人材センター

ど会員増強に向けた支援などにも積極的に取り組んでいく。

胃がん検診及び胃がんリスク検査の取り組みは

会派として要望を重ねてきた、胃がんリスク検査と胃がん検診に内視鏡検査が導入された。平成29年度の実施状況をふまえた効果と課題及び今後の取り組みについて伺う。

胃がん検診は前年度より受診者数が増加し、がん発見者数は123人。内視鏡検査の導入に際し懸念された偶発症の報告はごく軽微な1件で、安全で効果的な検診ができている。今後も内視鏡検査が適切に行われるよう努めるとともに、胃がんリスク検査を受け、ピロリ菌除去を行うことが、胃がんの発生リスクの軽減や次世代への感染予防に効果があることを普及啓発していく。

用語解説

- ※1 特定複合観光施設:国際会議場施設、展示施設等、我が国の伝統・文化・芸術等を生かした公演等による観光の魅力増進施設、送客機能施設、宿泊施設、カジノ施設から構成される一群の施設(その他観光客の来訪・滞在の促進に寄与する施設を含む)であって、民間事業者が一体として設置・運営するもの。
※2 熱中症予防運動指針:(公財)日本体育協会において、スポーツ活動による熱中症事故の実態調査やスポーツ現場での測定など幅広い研究結果をもとにまとめた、熱中症予防のための具体的なガイドライン。